

学校の要としてよりよい学校づくりに力を発揮しませんか

北海道教育庁宗谷教育局 令和6年7月

先日、各市町村教育委員会を通じて、「北海道公立学校教頭昇任候補者選考実施要綱」を通知しました。

下記の表には、これまでの宗谷管内の教頭昇任候補者選考の受検者数などを示しておりますが、管内で必要な教頭先生の人数は、管内の受検者数だけでは満たすことができず、他管内からの管理職の転入により、補っている状況が続いています。

今後も、管内で役職定年を迎える校長先生や教頭先生が一定数見込まれること、他管内の教頭昇任候補者選考の受検者数も減少傾向にあることなどから、管内の受検者数によっては、円滑な学校運営に支障をきたしてしまうことが懸念されます。

教頭先生を経験した方のお話を伺うと、「教頭職は大変なこともあるが、教育に対する考え方が広がり、深まった。」「子どもの成長に加え、先生方が成長する姿も喜びに感じられるようになった。」などの声も聞かれるところです。

教頭昇任候補者選考の資格要件を満たす皆様方には、積極的に候補者選考を受けていただき、よりよい学校づくりを牽引するリーダーとして、御活躍いただきたいと考えています。

本資料を通じて、教頭昇任候補者選考に係る管内の状況、現在教頭先生として活躍している方々の様子や思い、教育委員会連絡協議会、校長会、教頭会の会長の方々からのメッセージをお伝えします。

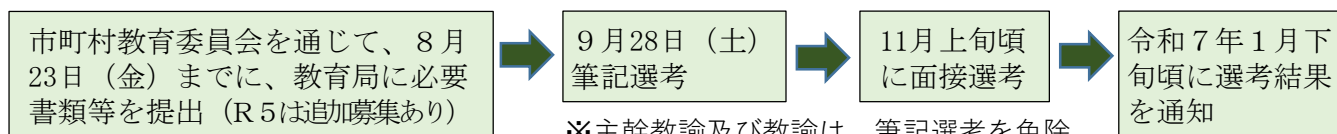
〔教頭昇任候補者選考受検者等の推移〕（R7・R8当初人事の教頭必要人数は、現時点での見込み数）

	R2 当初人事	R3 当初人事	R4 当初人事	R5 当初人事	R6 当初人事	R7 当初人事	R8 当初人事
教頭必要人数	12	17	15	14	18	16	21
管内受検者数 (昇任者)	7 (4)	4 (3)	3 (2)	6 (4)	6 (6)	? (?)	? (?)
過年度登録残の 昇任者数	1	3	0	0	2	0	?
他管内からの管理 職の転入者数	7	11	13	10	10	?	?

〔教頭の職務〕（学校教育法 第四章 小学校 第三十七条から）

- ⑦ 教頭は、校長（副校長を置く小学校にあっては、校長及び副校長）を助け、校務を整理し、及び必要に応じ児童の教育をつかさどる。
- ⑧ 教頭は、校長（副校長を置く小学校にあっては、校長及び副校長）に事故があるときは校長の職務を代理し、校長（副校長を置く小学校にあっては、校長及び副校長）が欠けたときは校長の職務を行う。この場合において、教頭が二名以上あるときは、あらかじめ校長が定めた順序で、校長の職務を代理し、又は行う。

〔教頭昇任候補者選考のスケジュール〕



教頭先生の日

〔稚内市立稚内中学校 内山 文香教頭先生〕

(生徒93名 5学級 教職員14名)



教頭先生の御紹介

〔昇任年度〕令和5年4月(教頭として2年目)

〔家族構成〕夫、長女、二女、三女(高3)、母(稚内市在住)

〔教頭になったきっかけ〕子育ても終わりが見えてきて、教員としての今後を考え、決意しました。

出勤

7:30

天候、ヒグマ出没など、朝のニュースや防災情報を確認して出勤します。出勤後は、環境整備員さんとも敷地内の状況について情報共有します。



7:45

校長先生と打合せ①

前日の報告事項と本日の予定等を簡単に確認します。

校務運営委員会

7:50

学年や分掌のリーダーと打合せをします。学年、分掌業務を進める際の留意事項を共有します。



8:25

校長先生と打合せ②

校長先生に学校運営上の課題等を報告し、解決のための手立てなどについて助言やアドバイスをいただきます。



授業参観

10:00

可能な限り、多くの授業を参観し、先生方や子どもの様子を把握します。参観後は、気になったことはもちろん、先生や子どもの頑張りを積極的に伝えるように心がけています。



12:25

給食

会計年度任用職員さんなどと給食を食べます。学校を支える方々との会話から、学校運営に生かせるものは、積極的に取り入れるようにしています。



職員会議・校内研修等

15:40

先生方が自分の考えを自由に発言できる環境づくりに心がけています。会議や研修では、時間を意識して効率的に進めるよう話をしています。

16:30

教職員の相談対応

教科指導や生徒指導の充実、家庭や地域との連携などの取組をどのように進めるか相談を受けます。一人一人の先生の思いや願いを大切にして、アドバイスするよう心がけています。



校舎内の点検

18:00

窓の施錠、危険箇所等の点検を行います。何かあれば、翌朝、環境整備員さんに相談します。

退勤

18:15

スケジュール帳を見直し、次の日の予定の他、1週間先、1か月先の仕事の段取りを考えます。帰宅が遅くなることもありますが、なるべく早く帰るよう心がけています。

休日は、録画していたドラマを見たり、読書をしたり、レコードを聴いたりして、のんびり過ごすようにしています。



教頭先生に聞きました

□ 教頭先生になろうと思ったきっかけは何ですか。

職員室の日常会話の中で、当時の管理職から次年度の宗谷管内の教頭配置の情勢を伺い、「このままでは、教頭が配置できず、その学校の子供たちが困ることになるのではないか？」という危機感を感じ、微力ながら手を挙げようと決断しました。（稚内市立稚内中央小学校教頭 杉本 旬）

□ 教頭先生になることに不安はありませんでしたか。

不思議なことに不安は全くありませんでした。教務部長時代に管理職と相談する機会も多く、視野が広がったことが大きかったです。どの仕事をしていても悩みが生まれてくるのは当たり前のことなので、それはそれでなんとかなると思っていました。（利尻町立利尻中学校教頭 永吉 宏之）

□ 授業を行う機会が少なくなることに不安はありませんでしたか。

子供達との深い関わりが減り、寂しさを感じることはあります。ただ、それ以上に、教頭としての責任の先に、子ども・地域・教職員の成長が待っていることに、やりがいを感じます。「一隅を照らす」気持ちを大切に、チャレンジを続けます。（利尻町立沓形小学校教頭 杉本 真樹）

□ 仕事（教頭職）と家庭（育児など）の両立に不安はありませんでしたか。

責任ある立場への挑戦と、かけがえのない我が子との時間。もちろん不安はありましたが、家族の理解と温かい支えがあってこそ前に進むことができました。両立は決して楽ではないですが、仕事に優先順位をつけ、自分自身のペースで仕事をしています。（稚内市立稚内東中学校教頭 平岡 雅子）

□ 教頭先生になって大変だったことは、どのようなことですか。

教頭1年目&小学校担任の二刀流で、教材研究等に時間を費やしている点が大変と言えば大変。なんとか頑張っているのは、事務職員の他にサポートをしていただける職員が配置されているのが大きいです。一番大変なのは、教頭らしくない事ですかね。（豊富町立兜沼小中学校教頭 吉川 貴志）

□ 教頭先生になってよかったことは、どのようなことですか。

教育についての勉強や、校長先生や他の先生方との関わりを通して、「広く深く長い」視点をもてるようになったこと、学校や地域への思いや願いを知る機会が増え、地域やそこに住む方をより好きになったこと、現場にいる時より、工夫して仕事をするようになり、プライベートに使える時間が増えたこと、です。（稚内市立宗谷小学校教頭 國廣 尚人）

□ 教頭先生になって自分自身が成長したと感じることは、どのようなことですか。

視野が広がったことです。管理職は、子どもや保護者だけではなく、地域の実情や国の動向など、もう少し視野を広げて考えることが求められます。教育活動を考える際に、そのような視点を持てるようになったことは、自分自身の成長だと感じます。（枝幸町立目梨泊小学校教頭 長畑 幸太郎）

□ 御自身の働き方改革を進めるために、どのようなことに気を付けていますか。

私が意識しているのは、スケジュールの管理と今日できる事を明日に先延ばししない、の2つです。外部から仕事を依頼されることや事例が発生したときに急遽対応しなくてはいけないこともあります。どんなことがあっても大丈夫なように、そして自分の時間を持って毎日元気で働くためにも、できることはどんどんやるようにしています。（礼文町立礼文小学校教頭 富樫 淳）

皆様へのメッセージ

宗谷の学校、人づくりのために

宗谷管内教育委員会連絡協議会長
小川 俊輝

皆様には宗谷管内の学校教育推進に多大なご尽力をいただいておりますことに心から敬意と感謝を申し上げます。

市町村立学校を円滑に運営するうえで、教頭先生の存在は欠かせないものですが、管内では自前で人材を充足することが年々難しくなってきました。

教育の第一線で長年にわたり活躍されてきた皆様には、是非とも次のステージへステップアップされ、その経験と知識とノウハウを引続き生かしていただきたいと願っています。

管理職の立場で見る学校は、また違った景色が見えると言われていました。

学校全体を見る「視点」が変わることと、若い教員を育成する「人づくり」に新たな喜びを感じられる方もおられます。

どうか、脈々と受け継がれてきた「宗谷の教育」「学校づくり」「人づくり」のため、教頭職を前向きに検討していただきますよう切にお願い申し上げます。



宗谷の教育を持続可能にするために

宗谷校長会長
塩原 悟

自分はどのようにして管理職になったのだろうか？現在、校長、教頭職に就いている多くの方は、自校や先輩の管理職に「そろそろ教頭昇任選考を受けてみないかい？」と勧められて受検した人が多いと思われる。

私は、よほど頼りない教員であったのかそのような勧奨はなく、自分の意思で教頭受検を決意したのを覚えている。当時、稚内東小学校の教務部長であったが、20代30代の教員が圧倒的に多く40代50代はわずかであった。学年2学級から3学級であったが学年部長は、20代後半から30代前半、分掌部長は、30代後半から40代前半と若い先生方が学校の原動力となって教育活動を担っていた。

そんな学校を俯瞰し、40代後半であった自分はどうかあるべきかを考えたとき、自分は、学校を運営する立場で力を発揮すべきだと感じた。

宗谷の教育を持続可能なものにするためにぜひ皆さんの力を貸してください。宗谷に必要な人材は宗谷から生み出しましょう！

学校の幸せを支える存在に

宗谷公立学校教頭会長
小棚木 秀行

第4期教育振興基本計画で示されている「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」。ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福だけでなく将来にわたる持続的な幸福も含むものです。

子どもたちのウェルビーイングの向上には、教師のウェルビーイング確保も必要とされています。そのために「子どもたちの成長実感」「保護者・地域との信頼関係」「職場の心理的安全性」「良好な労働環境」といった視点で学校や教職員の状況を改善していくことが求められます。

この教師のウェルビーイング確保の中心となる存在が教頭です。みなさんは、これからもそれぞれの職場でより良い学校づくりを進めるために、今まで積み重ねてきた経験や実践を最大限に発揮して下さるかと思いますが、その際に「教頭として」という選択肢も積極的に選んでいただけたら幸いです。

子どもたちの、先生たちの、そして自分自身の「ウェルビーイング」実現を目指して、ぜひ私たちと一緒に頑張りましょう。

子どもの未来保障のために

北海道教育庁宗谷教育局長
笠井 浩

ミドルリーダーの皆様には、日頃から、管内の子どもたちの健やかな成長に向けて、学習指導や生徒指導の充実に力を発揮していただき、ありがとうございます。

さて、宗谷管内では、ここ数年、教頭昇任候補者選考の受検者が少なく、今後も、このような状況が続くと、学校運営に支障をきたしてしまうことが懸念されるところです。

教頭先生は、子ども一人一人への深い愛情のもと、校長先生の経営方針に基づき、学校教育目標の具現化に向けて、教職員や地域と協働して、企画・提案・調整・推進する「学校の要」であり、子どもの未来保障の取組を進める上で欠かせない存在です。

宗谷教育局としては、教頭先生の働きやすい環境づくりを推進してまいりますので、ミドルリーダーの皆様には、教頭昇任候補者選考に進んでチャレンジしていただき、子どもの未来保障の取組を次代に確実につないでいただきたいと願っています。

よろしく申し上げます。

